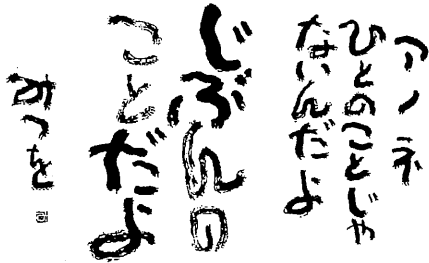


さくら第455号

平成29年11月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: Tel.51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『緊張感と集中力を競技大会で養う』

日々の学習でつちかわれた成果、成績を確かめる方法はいろいろありますが、抽象的な感じではなかなかつかみにくいもので、やはり、数字で表すことで客観的に知ることができそれに対する対応も具体的に考えられます。

そろばん学習での成果を確かめる方法は、検定試験を受けて何級に合格した、何段になったなど、誰の目にも判断できます。検定試験は、種目と制限時間がありその合格基準を満たせばすべてが合格可能になります。

能力検定試験ならば、かけ算・わり算・みとり算の3種目合計の点数が1級～3級は240点以上。4級～6級は210点以上をとればすべてが合格します。

しかし、競技大会ではみとり暗算を含めた4種目の400点満点であっても必ず優勝とはなりません。なぜならば、同点ならば決勝があり点数と計算タイムの速さで順位が決まります。

検定試験ならば制限時間内に合格点数を取ればよいので他の人を意識することなく、自分のことだけを考えて計算すればよいです。

検定試験の練習では、受験級や段位の種目にあわせたやり方ができます。制限時間いっぱいを使い、まずは合格するための最小点数をクリアするよう練習します。満点を取らずともよいから気分的に楽です。能力検定試験では3種目が1枚の用紙に印刷されているので、どの種目からスタートさせてもよく、得意な種目であまった時間は、苦手な問題にあてることが

できるから助かります。ただし、段位はかけ算・わり算・みとり算を種目ごとに計るのでその種目で合格点を取らねばなりません。

また、全珠連検定試験では種目ごとに行うので制限時間内にできあがるよう計算します。それと、段位の検定試験では、特認制度があり、全珠連検定試験なら連続3回分の成績で判定するから不合格種目だけを重点的にレベルアップすれば合格します。

日本珠算連盟の段位は2年間6回分の成績で判定するから余裕をもって対応できます。

このように検定試験と競技大会とでは、判断基準がことなるので、どちらか一方だけの練習ではより上級、高段位をめざすことは困難。

競技大会は毎年開催されているので自分のレベルや開催月、場所などを考慮し出場してほしいと思います。

競技大会は何も特別うまい人だけが参加するものではありません。だれも最初から上手な人はいません。何度か大会に出ていくことにより自分であれこれ感じ取って成長します。

4月には全珠連検定段位合格者のみが出場できる段位チャンピオン大会があります。6月にはあんざんコンクール。7月は全珠連県大会。8月は県珠算競技大会。10月が全珠連県通信大会。11月はそろばんコンクールです。

競技大会は開催場所がちがいで、参加者も知らない人が多くいます。制限時間は大体5分が多く、集中力をアップするにはもってこい。

いつもよくにた会場ばかりで受験するとどうしても緊張感がうすれます。まわりに知っている人が多いと気が楽になりつい油断しがちになります。競技大会は広い会場で100名以上が同時に計算を始めるから会場内の空気がピーンと張りつめるなかでの計算はものすごく集中せねばなりません。

いろいろな体験をすることにより緊張感と集中力を自分で感じ取ります。そのような場所での体験を重ねることでパニックに陥らないような強い気持ちを作ることができます。